

今年こそは平和で穏やかな年に

会長 本田孝也

新年明けましておめでとうございます。

昨年末、NHKで心に残る2つの番組の放送がありました。一つはザ・ライフ「何事にもとらわれず、平和を求めて 村山富市元首相の遺言」です。村山氏は1994年に第81代内閣総理大臣に就任。戦後50年にあたる1995年に「アジア諸国に対する日本の植民地支配、侵略を疑いようのない歴史の事実と認定し、痛切な反省に基づいて心からのお詫びをする」とした村山談話を閣議決定しました。さらに在任中に被爆者援護法を制定、水俣病の政治解決をはかりました。韓国の従軍慰安婦に対して謝罪するとともに「女性のためのアジア平和国民基金」を創設、南北統一後のベトナムを日本の首相として初めて訪問し、2国間関係

発展の新たな道筋を作りました。村山談話に対するアジア諸国での評価は高く、中国の習近平国家主席は村山氏が101歳でなくなった昨年10月に石破茂首相（当時）に弔電を送り、哀悼の意を表しました。

間もなくランタンフェスティバルが始まります。長崎は江戸時代から中国との結びつきの強い都市です。昨今何かと陰悪になりつつある日中関係。早く平和な昔を取り戻して欲しいものです。

もう一つは新プロジェクトX～挑戦者たち～「75万人の命救った用水路～医師・中村哲 希望のアフガニスタン」。中村先生は2015年に当会の第38回総会の市民公開講演会で講演していただきました。荒涼としたアフガニスタンの砂漠が緑の大地に蘇るスライドに驚きと感動を覚えたのを思い出します。ペシャワール会でボランティア活動中だった伊藤和也氏が誘拐殺害された時も「必要なのは憎しみの共有ではない。憤りと悲しみは友好と平和への意思に変えて今後も力を尽くす」と誓います。中村先生は2019年12月、自らも凶弾に倒れ死去されました。享年73歳。カブールの空港ではアフガニスタンのアシュラフ・ガニー大統領自身が棺を担ぎ追悼式典が行われました。

年頭にあたり、今年こそは平和で穏やかな年となることを切に願います。

